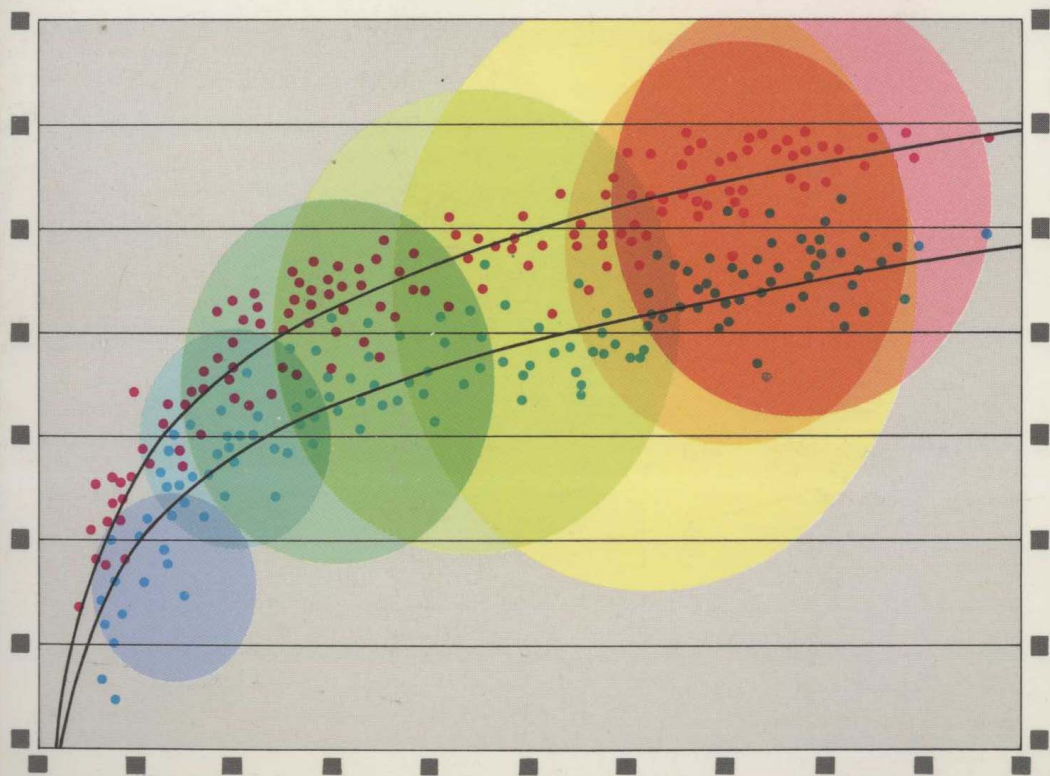


日本の人口・ 日本の社会

高齢化社会の未来図

人口問題審議会 編



日本の人口・日本の社会

高齢化社会の未来図

人口問題審議会 編

東洋経済新報社

日本の人口・日本の社会

定価 1100 円

昭和59年8月9日 第1刷発行

昭和59年9月25日 第2刷発行

編者 人口問題審議会

発行者 高柳 弘

発行所 〒103 東京都中央区日本橋本石町1の4 東洋経済新報社

電話 編集 03(246)5661・販売 03(246)5467 振替 東京3-6518

本書の一部または全部の複写・複製・転写・転載・磁気媒体への入力等を禁じます。これらの許諾については、小社(電話03-246-5634)までご照会ください。

© 1984 〈検印省略〉 落丁・乱丁本はお取替えいたします。

Printed in Japan ISBN4-492-22063-1

「日本の人口・日本の社会」の発表にあたって

昭和49年ルーマニアの首都ブカレストにおいて、第3回世界人口会議が開かれたことに関連して、本審議会は、いわば「人口白書」ともいうべき「日本人口の動向」を発表しましたが、それからはやくも10年を経過しました。

この間における我が国の社会経済変動は著しく、それとともに出生率の大幅な低下や死亡率の改善によって人口高齢化の進展をはじめ、我が国の人口動向も大きく変化してきました。

人口問題が社会経済情勢と大きな関係を持つことはいうまでもありませんが、このような社会経済変動に伴って生じた人口に関する重要な問題については、本審議会はその都度厚生大臣または関係各大臣に意見を述べてまいりました。

一方、世界人口はこの10年間に増加率が年2.0%から1.7%に低下しているものの、昭和59年現在48億人に達しております。今後、増加率がさらに低下すると仮定しても、世界人口は今世紀末には61億人に達するものとみられています。このような情勢から、国際連合は10年前の世界人口会議で採択された「世界人口行動計画」のフォロー・アップを行うため、本年8月メキシコシティにおいて国際人口会議を開催することにしております。

発展途上国における高出生率と高い人口増加率は、その経済社会開発に対する大きな障害となっている一方、多くの先進諸国においては低出生率及び人口高齢化が社会経済に極めて大きな影響を及ぼしています。このような世

ii 「日本の人口・日本の社会」の発表にあたって

世界の人口問題は、対策が遅れば遅れるだけ事態を悪化させることになりま
す。

したがって、我が国の人口問題も、国内だけのものでなく、世界の人口問
題との関連において考えなければなりません。人口問題を解決するため
には、政治、行政にあずかる人びとが人口問題の重要性に対する認識をよりい
っそう深めることが必要なことはいうまでもありませんが、それと同時に国
民ひとりひとりが人口問題に対する認識を深めることが必要であります。こ
のような見地から、国際人口会議の開催を契機として、第3回目の「人口白
書」ともいべき報告書を作成し、あわせて国際人口会議に向けて審議会と
しての意見をとりまとめるため、本審議会は、本年2月「国際人口会議に関
する特別委員会」を設け、黒田俊夫氏を委員長として集中的に討議を重ね、
その成案は去る6月20日、本審議会の報告書として総会で決定されました。
この報告書がこの程『日本の人口・日本の社会』と題して東洋経済新報社か
ら出版されることになりました。

なお、本書のとりまとめにあたり資料作成等に努力された厚生省人口問題
研究所の方々、事務を担当された厚生省大臣官房政策課の方々に心から感謝
の意を表します。

昭和59年7月

人口問題審議会会長 山本 正淑

まえがき

本審議会は昭和34年に引き続き、昭和49年に我が国人口の動向を総合的に分析し、問題点を指摘した「日本人口の動向——静止人口をめざして——」を発表した。

昭和49年は、国際連合によって「世界人口年」と定められ、人類の命運を左右すべき地球人口の将来と食糧の需給、資源の消費、経済社会開発、環境の悪化などの諸問題について真剣に考え、世界の人口問題との関連において、各国がそれぞれの人口問題とその対策を考究すべき年であった。また、同年8月には、ルーマニアの首都ブカレストで国際連合主催の世界人口会議が開かれ、画期的な「世界人口行動計画」が採択された。

ブカレスト会議以降、世界の社会経済情勢は大幅に変化し、発展途上国における人口増加をはじめ、急速な都市化、国際人口移動等、世界の人口問題の多くはいまだに未解決のままである。このため国際連合は、これらの課題に対処するため昭和59年8月にメキシコシティにおいて国際人口会議を開催する。

我が国においても、昭和49年以降出生率が急激に低下したのをはじめ、人口動向が大きく変化し、その結果としての急速な人口の高齢化が、我が国の人口問題における最重要課題となっている。

人口の変動は社会経済の変動と深く関連しつつ進行し、しかもその変化はかなり後にまで影響を及ぼすので、人口問題への対応は極めて長期的なもの

でなければならない。また、人口高齢化の問題は広範囲にわたり、かつ相互に複雑に関連しているため、総合的な観点からの政策の推進が必要である。

国際人口会議を契機に、本審議會は次のような観点からこの報告書を取りまとめることとした。

- (1) 人口は社会経済の基礎となるものであり、その対応には総合的、長期的な視点が重要である。
- (2) 高齢化社会への対応は国民全体の課題であり、人口問題に対する国民の理解と認識を高めることが不可欠である。
- (3) 我が国の人口問題も世界の人口問題との関連において考える必要がある。

本報告書は序章において、各章の論旨を要約するとともに、我が国の現在及び将来の人口動向ならびに人口問題に関連して若干の提言を行い、あわせて国際人口会議に臨む我が国政府の基本的立場と役割について述べている。第1章においては、人口の高齢化を中心に、日本人口の動向を総括的に述べ、第2章で出生、第3章で死亡、第4章で人口移動を論じた後、第5章では高齢化社会を迎えるにあたって、人口の観点から特に重要と考えられるポイントを指摘している。また、世界の人口問題について十分な認識を持つことは極めて重要であり、さらに、近く国際人口会議において世界の人口問題が討議されることにもかんがみ、最後に、最新の国際連合の資料をもとにして、世界人口の動向と問題をまとめている。

人口の高齢化を中心とした我が国の人口動向とその問題について、広く国民の理解と認識が高まり、あわせて世界の人口問題について国民の関心が高まることを期待する。

昭和59年7月

目 次

『日本の人口・日本の社会』の発表にあたって

まえがき

序 章 日本の人口・日本の社会……………3

第1節 日本人口の現状と問題点……………3

1 日本人口の増加……………3

2 出生率と死亡率の低下……………5

3 人口の都市集中と過密・過疎……………7

4 人口高齢化とその問題……………9

第2節 日本の人口問題に対する対応の方向と提言……………12

1 「自立する高齢者」をめざして……………12

2 豊かな生活環境を求めて……………13

3 人口についての教育・研究水準の向上……………13

4 国際協力の推進……………14

第3節 国際人口会議に対する日本の立場と役割……………15

1 世界の人口問題……………15

2 国際人口会議の背景……………16

3 日本の歴史的経験とその国際的意義……………17

4 日本の基本的立場と役割……………18

第1章 静止人口と高齢化の進展

——日本人口の回顧と展望——……………21

第1節 静止人口に向けて……………21

1 人口増加——明治以降3倍に増加——……………21

vi 目 次

2	出生率はどう変化したか	23
3	死亡率はどう変化したか	26
第2節	高齢化社会の到来	28
1	年齢構成の変貌——人口高齢化——	28
2	諸外国よりも急激な我が国の高齢化	30
第3節	人口高齢化の社会経済的影響	31
1	高齢者扶養の重さ	31
2	労働力人口の高齢化	33
3	人口高齢化と地域社会	36
4	人口高齢化と家族の変化	38
5	家族のライフサイクルの変化と高齢化	40
第2章	なぜ最近出生率が下がったのか	45
第1節	最近の出生率低下	45
1	出生率の低下	45
2	出生率に影響する3つの要因 ——年齢構造、結婚の仕方、夫婦の出生力——	47
3	結婚・出産期の女子人口の減少	48
第2節	結婚時期が遅くなった	49
1	初婚年齢が高まっている	49
2	結婚観は変わったか	50
3	学歴が高まったために結婚が遅れている	51
第3節	「2人っ子」の線は崩れているか	54
1	夫婦の子供数	54
2	若い夫婦の意識	55
第4節	定着した家族計画	57
1	最近避妊実行率に変化は見られない	57
2	人工妊娠中絶の動向	59
第5節	出生率の見通し	61

1 晩婚化と有配偶率について	61
2 夫婦の子供の産み方について	62
3 出生率の見通しについて	64
第3章 健康と長寿を求めて——死亡と平均寿命の動向——	65
第1節 世界最長寿国への歩み	65
1 死亡率の低下	65
2 平均寿命の伸び	67
第2節 死亡率はどのように低下したか	67
1 男女・年齢別にみた死亡率	67
2 死亡原因の交替	69
3 寿命の男女差	72
第3節 死亡率低下の背景——社会経済的要因と死亡率——	74
1 死亡率の地域差	74
2 死亡率の職業別格差	76
3 死亡率低下の社会経済的要因	77
第4節 平均寿命はどこまで伸びるか	79
1 我が国とヨーロッパ諸国の死亡動向の比較	79
2 我が国の平均寿命の見通し	80
3 死亡と健康に関する展望と課題	81
第4章 人の住み方はどう変わったか	
——人口分布と人口移動——	83
第1節 人口分布と都市化	83
1 高い人口密度	83
2 都市化の進展と人口分布の変化	84
3 人口分布の変化と過密・過疎問題の発生	88
4 大都市圏における人口分布とドーナツ化現象	90
第2節 人口移動はなぜ起こるか	92

viii 目 次

1	経済発展と人口移動	92
2	年 齢 と 移 動	96
3	人口移動要因の変化	99
第3節	将来どの地域にどれだけ人が住むか	101
1	地域人口の将来像	101
2	人口分布と地域開発計画	102
第5章	高齢化社会を迎えるにあたって	103
1	人口の長期変動	103
2	人口高齢化をどう見るか	107
3	中高年労働力の活用	109
4	家族構造の変化と高齢者の生活	112
付録	世界人口の動向と問題	115
第1節	世界人口の動向	115
1	世界の人口増加	115
2	地域別人口の状況	116
第2節	出生率と死亡率の変化	119
1	出 生 率	119
2	死亡率と平均寿命	120
第3節	年齢構造の変化とその影響	121
第4節	人口の都市化	123
1	都市・農村人口の動向	123
2	巨大都市化	124
第5節	国際人口移動の変化	125
1	永 住 移 住	125
2	勞 働 移 動	126
3	非合法・無登録移動	127
4	難 民	128

第6節 人口政策の現状	128
1 出生政策	129
2 人口移動政策	130
用語解説	133
関連統計表	141

図表目次

〈図〉

図1	昭和58年10月1日現在我が国の人口ピラミッド	4
図2	出生率及び死亡率の推移	5
図3	3大都市圏の社会増加率の推移	7
図4	年齢構造の変化	9
図5	老人1人を何人の働き手が支えるか(2通りの見方)	10
図6	家族構成の変化	11
図7	日本人口の推移	22
図8	出生率及び死亡率の推移	24
図9	人口の年齢構成の推移	28
図10	欧米先進諸国と日本の老年人口割合	30
図11	従属人口指数の推移	32
図12	年齢別の労働力率(昭和57年)	34
図13	労働力人口の推移	35
図14	高度経済成長期の人口増加率と府県別高齢化水準の関係	37
図15	老親扶養に対する態度の推移	39
図16	戦前、戦後の家族のライフサイクルの変化	41
図17	高校・大学への進学率の推移	53
図18	避妊実行率の推移	58
図19	人工妊娠中絶率の推移	60
図20	平均寿命の伸びの国際比較	66
図21	男女・年齢別死亡率の推移	68
図22	都道府県別平均寿命と1人当たり県民所得の関係(昭和25, 30, 35, 40, 45, 50, 55年)	78
図23	県別人口からみた人口集中度の推移	84
図24	人口移動数の推移	93
図25	移動方向別にみた県間人口移動数の推移	94
図26	年齢別流入超過率(男子)	97
図27	人口減少が経済社会に与える影響	104
図28	我が国の年齢各歳別人口ピラミッド	106
図29	男子の年齢別生存数の推移	107
図30	見方を変えた老年人口指数	110
図31	最近の世帯主率の日米比較(結婚している男子)	111
図32	先進・発展途上地域別人口及び増加率の推移	116

図33 世界の主要地域別人口及び面積の割合（1984年）……………117

〈表〉

表1 65歳以上人口の同居の状況……………39
 表2 出生率の推移……………46
 表3 女子の未婚率の推移……………49
 表4 若者の結婚志向……………51
 表5 夫婦の子供数の推移……………55
 表6 若い夫婦の子定子供数……………56
 表7 女子の初婚率の推移……………62
 表8 理想の子供数を持たない理由……………63
 表9 平均寿命の伸びに対する年齢別死亡率低下の寄与率……………69
 表10 年次別にみた死因順位……………70
 表11 平均寿命の伸びに対する主要死因別死亡率低下の寄与率……………72
 表12 平均寿命の男女差……………73
 表13 男子就業者の職業別死亡率……………76
 表14 我が国とヨーロッパ主要国の死因別死亡割合……………80
 表15 都市人口の推移……………86
 表16 3大都市圏人口の推移……………87
 表17 地方中核都市圏人口の推移……………87
 表18 東京、大阪、名古屋の50km 圏内人口増加率……………91
 表19 年齢別人口移動数（昭和55年）……………96
 表20 移動方向別にみた移動理由（昭和56年）……………100
 表21 家族のライフサイクルによる世帯主率……………113
 表22 人口規模の大きい国の順位……………118
 表23 主な国の出生率……………119
 表24 先進・発展途上地域別人口の年齢別構成比の推移……………122
 表25 先進・発展途上地域別、都市・農村部別人口構成比及び増加率の推移……………123
 表26 人口規模の大きい都市の順位……………124

〈関連統計表〉

表1 男女別人口、人口増加率及び人口密度の推移……………143
 表2 出生、死亡、乳児死亡、死産、婚姻及び離婚の推移……………144
 表3 年齢（3区分）別人口及び平均年齢の推移……………145
 表4 男女・年齢階級別有配偶率の推移……………146
 表5 男女・年齢階級別労働力率の推移……………146
 表6 産業（3部門）及び職業（4部門）別就業者割合の推移……………147
 表7 普通世帯数、平均世帯人員及び核家族世帯の推移……………147

xii 図 表 目 次

表 8	都道府県別人口，年齢（3区分）別割合，性比，人口密度及び人口増加率（昭和58年）	148
表 9	地方別人口及び人口増加率の推移と人口密度（昭和58年）	149
表10	人口階級別市町村数，人口及び人口増加（昭和55年）	150
表11	都道府県内・都道府県間別及び都道府県間移動の類型別移動数	150
表12	主要地域別人口及び人口増加率の推移	151
表13	主要地域別普通出生率及び合計特殊出生率の推移	151
表14	主要地域別普通死亡率及び平均寿命の推移	152
表15	主要国の年齢（3区分）別人口割合の推移	152
表16	主要国の合計特殊出生率の推移	153

日本の人口・日本の社会

——高齢化社会の未来図——

